

「平成 18 年度 VOC 処理技術拡大ワーキンググループ 会合」におけるアンケート結果

(1) 意見募集の概要

- 平成 19 年 1 月 26 日に開催された、「VOC 処理技術分野 拡大ワーキンググループ」の出席者を対象に実施。
- 会場にて配布、会議終了後、退室時に回収。(5 件の意見を回収)
- 設問項目は、以下の 4 点
 - ・事業・技術への要望・意見
 - ・メリット向上のための要望・意見
 - ・会合開催・運営に係る要望・意見・感想
 - ・その他

(2) 結果概要

①事業・技術への要望や意見

- アンケートでは、本事業に対して、大気汚染防止法における自主的取組を支援する役割を期待する意見が寄せられている。また、更なる展開方策として、環境省と地方自治体、業界団体などとの連携強化が望まれている。
 - 一方、実証試験のあり方として、経時評価を導入して欲しい、実証試験結果をもとに技術改善のためのフォローを行って欲しい、設置方法による導入効果の違いがわかる実証を行って欲しいとの意見が挙げられている。
- 規制に対する適切な指導の強化（環境技術開発者）
 - ユーザー、業界、協会での啓蒙活動（環境技術開発者）
 - 環境省と都道府県環境関連部署一体化、連携強化（環境技術開発者）
 - 経時評価も必要ではないか（カタログ以外に）（環境技術開発者）
 - 実証試験の結果について、改善（技術的）にフォローする仕組みがあればと思います。市販されているといっても、レベルを向上することが必要である。（ユーザー）
 - 装置単体のみではなく、設置方法による効果の違いも分かると良い。例えば、配管の方法等。（ユーザー）

②メリット向上に係る要望・意見

- 実証済み技術の普及効果を高めるため、業界団体での公表や各種関連展示会での公表を行って欲しいとの意見が上げられている。
 - 実証済み技術の普及を促進するとともに、E T V 事業のブランド力を向上させるため、関連する法規制や条例との連携を強化して欲しいとの意見が挙げられている。
- 認証技術に関する公表の方法（環境省HPだけでなく、各業界、協会等での公表や環境関連の展示会での公表）（環境技術開発者）

- 都の酸化エチレン条例がトーンダウンしている（都に聞いても区に降ろしているの
で監視していないという）。E T Vのブランド力を上げるためにも両輪である規制条
例の管理、ウォッチングを強化してほしい。（環境技術開発者）
- 装置メーカーのメリットを明確にしてほしい。（環境技術開発者）
- 目標とする性能を明確にしてほしい。どこまで、性能を下げても後押ししてもらえ
るのか。（ユーザー）

③会合開催・運営に係る要望・意見・感想

○ 他主体の意見が参考になったとの意見が挙げられている。

- 装置メーカーからのユーザーの要望の話は参考になった。（ユーザー）
（メーカー発言にあった、ユーザーの要望に関する話題が参考になった）
- 参加させていただきありがとうございました。（環境技術開発者）
- 一企業の一担当者として、有益な議論を聞かせていただきました。ありがとうございました。（環境技術開発者）

④その他

○ V O C 処理技術以外にも排出抑制技術も検討していくべきとの意見が挙げられてい
る。

○ 中小事業者における技術導入が促進されるような取り組みとの連携を重視すべきと
の意見が挙げられている。

- V O C を処理するのも重要ですが、V O C を排出させない技術や仕組みを考えること
も重要だと思います。大元からの排出量が少なければ処理するコストも低くできる
ので、C O ₂ と同じように出さない工夫を考慮すべきではないでしょうか。
- 中小のユーザーが装置を購入する施策をお願いしたい。自主的規制を促すか、何ら
かの規制ができないか。当面は効果が低くても、本当に安価な処理装置をすべての
ユーザーが設置する。例えば、東京都等のディーゼル車の S P M 対策のための、D
P F 装置のような強制力を持たせる。（ユーザー）
- 情報伝達は非常に難しく、まだまだ P C を活用されていない方は多い。規制に対し
ての罰則は必要。（環境技術開発者）

（以上）